



THE SERVICE CLUB FOR THE YMCAs

CHARTERED IN 2010

長野ワイズメンズクラブ 会報

2025年8月 第174号

THE Y'S MEN'S CLUB OF NAGANO

AFFILIATED WITH THE INTERNATIONAL ASSOCIATION OF Y'S MEN'S CLUBS



2025~2026年度 主題

長野クラブ会長 湯田勝彦

「15年間の思いを糧に前を見つめよう」

Look Forward through Our 15-Year Memories

あずさ部長 山口直樹（東京武蔵野多摩）

「垣根を低くし、活発な交流を」

東日本区理事 山下 真（十勝）

「ワイズのらしさ再発見」 Rediscovering Y's Uniqueness

アジア地域会長 田上 正（熊本むさし）

「信念と愛をもって行動しよう」 Act now with faith and love

国際会長

エドワード・オン（シンガポール） 「信念、愛、行動」 Faith, Love, Action

今月の聖句

『神がキリストにおいてあなたがたを赦してくださったように、互いに赦し合いなさい。』

（新約聖書 エフェソの信徒への手紙 4章22節 ※聖書協会共同訳）

2025年8月 例会案内

●日時 2025年8月29日（金）18:30~20:30

※例会の曜日は第4木曜日に変更しています。

●会場 レストランやま 380-0834 長野市問御所 1315

例会進行：森本

- ・開会点鐘 会長
- ・ワイズソング、ワイズの信条
- ・聖書朗読、祈禱
- ・会長あいさつ
- ・ゲスト、ビジター、キャンディデイト紹介 書記
- ・ワイズディナー 食前の祈り：
- ・卓話 卓話者：
- ・諸報告・諸連絡、ハッピーバースデー
- ・ニコニコ献金、会員一言 会計
- ・YMCAの歌
- ・閉会点鐘 会長

★★ 巻頭メッセージ ★★

『元気なブリテン』

湯田勝彦

以前、厚木クラブをチャーターした時に、元気なブリテンの話をさせていただいたことがあります。自分のワイズが他のクラブと「ワイズ」の名の元につながっていることを確認できる方法のひとつが、このブリテンです。

他クラブのブリテンを読んだことのない方は、ぜひ東日本区ホームページから、各地のクラブのブリテンを読んでみてください。それらのブリテンからは、それぞれのクラブの卓話、イベント、地域での活動、YMCAサポートの様子などなど、いろいろなことがわかります。

いちばん良くわかることは、そのクラブの「元気さ」かもしれません。活気のあるクラブは、ブリテンが元気です。フルカラーとかページ数の多さとかではなくて、たとえモノクロでも1ページの片面ものでも、ブリテンには、クラブの元気さが「にじみ出る」ものです。

私達の長野クラブも、ブリテンを皆で協力して盛り上げて、元気の「にじみ出る」ブリテンを作りませんか？それも、今年度の重点目標のひとつ「全員参加のクラブ運営」です。手始めに、リレーエッセイをみんなで盛り上げていきましょう。

8月

ハッピーバースデー
なし

สวัสดีปีใหม่ครับ!!

7月のデータ

会員数	6名
例会出席者数	5名
ゲスト	0名
ビジター	0名
例会出席率	83.3%
メーキャップ	0名
修正出席率	83.3%
ニコニコ献金	実施せず

2025-26年度

会長	湯田 勝彦
副会長	福島 貴和
書記	森本 俊子
会計	堀内 雅俊

7月24日例会



山梨YMCAだより

AYC2025 ～ PEACE ～への参加

総主事 中田 純子

今年 7 月 30 日から 8 月 3 日まで、熊本 YMCA 阿蘇キャンプ場にて、ワイズメンズクラブ主催の「AYC2025～PEACE～」が開催されました。この大会は、多様な背景を持つ若者たちが集い、「私たちはどこから来て、何者で、どこへ向かうのか」というテーマのもと、語り合い、つながり合い、平和への具体的なアクションを模索する貴重な機会でした。ウクライナやガザで多くの若い命が奪われた混沌とした世界情勢を直視し、私たち自身が平和の担い手としてどのように役割を果たすのかを共に考えました。

この重要な大会には、山梨 YMCA 職員であり日本代表ユースとして活躍する風間奈月さんも参加いたしました。彼女は若い世代の声を力強く発信する機会が与えられ、風間さんの情熱と行動は、多くの若者たちに希望と勇気をもたらし、私たちの活動に新たな活力を与えてくれたことだと確信いたしました。

私も山梨 YMCA 総主事としてワイズメンズとして、この AYC2025 に参加し、若者たちと共に学び、互いの理解を深めながら平和を築くための具体的な行動を共に考える機会を与えられ、地域と国際社会の架け橋となれるよう、皆さまと力を合わせて歩んでまいりたいと思います。

また、嬉しいことに、私たち甲府 21 ワイズメンズクラブ小澤智之さんの制作されたビデオが、ワイズメンズクラブ国際協会アジア太平洋地域主催のショートビデオコンテストで最優秀賞を受賞いたしました。応募作品は、山梨 YMCA が荊崎市でキャンプ場として整備を進められている「銀河鉄道の森プロジェクト」の映像です。これは地域社会への貢献を力強く伝えるものでした。ワイズメン全員が一丸となって取り組んだ成果が、広く認められたことに喜びと共に、深い誇りを感じております。

山梨 YMCA は 4 月に開設のフリースクール「わいわいクラブ」の利用が 3 名に増え、個を大切にしながら安心して過ごせる第 3 の居場所づくりを進めています。地域の子どもの未来を育むため、引き続き地域の皆さまと共に、より良い支援を目指してまいります。

「私たちはどこから来て、何者で、どこへ向かうのか」という問いを胸に、小さな一歩一歩を積み重ねることで、やがて大きな平和への道が開かれると信じています。ワイズメンズクラブと山梨 YMCA は、これからも「人から人へ」の精神で、地域と国際社会の架け橋となる役割を果たしてまいります。

★リレーエッセイ☆

湯田勝彦

この 8 月 22 日～24 日に、「JCMA（日本キリスト者医科連盟）」の総会が、志賀高原にて行われました。JCMA 総会は、日本全国から JCMA の会員である医療従事者が集まって、2 泊 3 日で「学びと交わりと祈り」の時を持つという、JCMA の一大イベントです。ワイズで言えば東日本区大会のようなものです。

今年の総会のテーマは『生』と『死』を考える～グリーフケアを通して～でした。生と死、グリーフケアは、ホスピスや緩和ケア病棟にかかわる方々だけではなく、医療従事者であれば誰でも多かれ少なかれかわってくるものですし、正解がある類いのものではなく、毎回毎回、これで良いのかと悩みながら向き合っているテーマと言えます。

今年の主題講演は、内藤いづみ先生の「あした野原に出てみよう。グリーフケアを見つめて。」でした。昨年の長野クラブのキックオフ例会に、当時のあずさ部長ピーターさんの奥様として参加された内藤いづみ先生。私がすかさずお声をおかけしたところ、なんとその場で快諾いただいて、それから一年越しの準備を経て、今年の JCMA 総会で実現した、という講演でした。



さて、私は JCMA の会員ではなく、今回は総会の事務局としてかかわってきました。特に今年の 7 月から 8 月にかけては、本業の業務も、長野クラブの栄村特別例会に向けての連絡調整や交渉も忙しかったのでさすがの私も疲れましたが、総会はその疲れも吹っ飛ばすほど楽しめました。その楽しさは JCMA の会員の方々とつながりにあると思うので、今後は会員に登録しようと考えています。

次は、倉石さん、よろしくお願いいたします！

リレーエッセイ 2 巡目始まりました

昨年度、新しい試みとして、クラブ会員による『リレーエッセイ』を始めました。とても素敵なエッセイ、本当にありがとうございました。今年度も 2 巡目が始まりました。指名された方はよろしくお願いいたします。

1. 字数は 600～800 字程度
2. 今感じていること、ふだん興味があること、自分の趣味や特技、得意なことや苦手なこと、素朴な疑問、ペット自慢など、自由に書いてください。
3. 原稿には何か写真を一枚添付してください。
4. 最後に次の会員を指名してください。

編集後記

今月のプリテンは、私が JCMA 総会の仕事で忙しかつたので、森本さんのアジア太平洋地域大会の報告がプリテンに間に合わず別紙になったのをこれ幸いと、手を抜かせていただきました。大変申し訳ありません！バングラの報告も途中のままです。（湯田）

2025-2026 アジア太平洋地域大会に参加して

森本俊子

8月1日～3日まで熊本で開かれた 31 st Asia Pacific Area Convention に参加してきました。

2016 年の熊本地震のあと、熊本城復興はどのくらい進んでいるのかなどと気になっていたのも、ぜひとも行きたかったのです。

日程に沿って長野から新幹線を使い継いで 7 時間半、長いと言えば長いのですが、36 度 C を超える暑さの中駅内部の移動だけでしたので、意外と簡単に行けました。

参加者は 18 か国/地域から 583 名、会議は Edward Ong 国際会長、田上正アジア太平洋地域会長の就任式に始まり、京都パレスクラブ会員で在京都ラオス人民民主共和国名誉領事 OhnoYoshihiro ワイズによる 基調講演があった。会議全体が英語と日本語の同時通訳方式でなされたため、聞く方も緊張が高かった。広島クラブの谷本康秀氏の英語日本語とも流暢な司会ぶりには感心させられました。心地よかったといった方が良いでしょう。

講演内容は京都の動物園にラオスから象をもらい受けた話メスだけでは不十分だとのことでオスも受け入れたというのが、かのパンダ導入の和歌山や上野の事も思い浮かび興味深く聴きました。現在はラオスにホテル学校を作りたいと準備を進め、資金も人材も揃って今一步というところまで行っているものの、1週間前のことラオス政府から「待った」がかかってしまったとのこと、ホテル学校の卒業生の日本での就業なども狙っていたという話で、政治とのかかわりなど複雑な調整がかかっていることを思われました。

晩餐会は二晩とも熊本日航ホテルで行われ、私は台湾の方との同席で一日目は英語での会話、二日目はスマホによる翻訳での会話や、日本の各地からの人々との対話や交流を楽しみました。二次会にも誘われ、厚木クラブのメンバーの縁戚の経営するおでん屋さんに行ったり、米沢が本店という「おしょうしな」という馬肉の店にも行きました。

二日目はエクスカージョンで、予定通り歴史と自然に癒される通潤橋ツアーに参加しました。暑さには参りましたが、美しい水前寺公園をめぐり、国宝に指定された江戸時代の「通潤橋」という石造りの水道橋の一日一回だけ行う放水に立ち会うことが出来ました。

このツアーの間に知り合った西日本区の方や埼玉クラブの方などを栄村のあずさの集いにお誘いしました。大野勉ワイズ夫妻など既知の方々はもちろん、東日本区のメンバーも利根川ご夫妻、田中博之ワイズ、鈴木伊知郎次次期理事なども熊本 YMCA の若いメンバーたちに交じって大活躍しておられました。

ホテルの前がおりしも開かれていた「火の国まつり」のおてもやん踊りのメイン会場とあって二日目の夜は特ににぎわっていました。

路面電車の市電が残っていて、なんとか乗り継ぎ隙間時間を街歩きしましたが、案内も 5 か国語（日本語、英語、韓国語、中国語、台湾語）で行われていたり 200 円の支払いをクレジットカードで行えたり初体験も多かった旅でした。帰りの新幹線待合で食べた「太平燕（タイピーエン）」という春雨の麺のお蕎麦はとてもおいしかったです。

個人の旅では味わえない充実した 3 日間でした。